

# 一期一会

発行  
明石市立朝霧中学校  
29号 平成30年9月26日

## 1 学年人権作文発表会 PART1

9月20日(木)の4校時、道徳の時間に、各クラス代表2名が夏休みに書いた人権作文を発表しました。発表者は堂々と発表することができました。また、聞く生徒のみなさんもしっかり集中して聞くことができました。普段の生活でも人権を意識して生活し、友達やクラスメートと良い関係を続けていこう。

### 1年4組 「いのちの重み」

今までほくは障害者の人と直接会ったり、障害者の人の気持ちを深く考えたりしたことはありませんでした。しかし、小学校の時に、仲の良い友達の兄弟がいました。その兄弟にはある障害があり、周りの人から陰口を言われたり、バカにされているのを見て、初めてそのような人たちの気持ちを考えてみました。

ほくはそもそも障害者という言葉が大嫌いです。なぜなら、障害者という言葉は害を障じる者とか書きます。彼らは人に対して害をもたらしているのでしょうか？そもそも、自分で選んだわけでもありません。それに、同じ人間同士なのに、なぜ、そのような呼び方をするのでしょうか？友達の兄弟A君は、いつも笑顔で遊びに誘いに来てくれます。ほくは最初、どのように遊べばよいのかと思いましたが、普段通りに、スケボーや鬼ごっこをして楽しく遊びました。ほくがすぐできることも、A君はその倍も努力が必要でした。でもA君は、A君のやり方で楽しく遊んでいました。僕が気づいたことは、A君は特別扱いされるより、普通に友達として、接してほしいとわかりました。

僕がA君と仲良く遊ぶことによって、A君が弟を大事に思っている内面もわかりました。

僕はその友達に会っていないかったら、ほくも外見で判断して陰口などを言う人になっていたかもしれません。だからこそ、僕は内面や努力を知らずに外見だけで判断している人達が許せません。

僕はA君に出会うことで気づいたことがあります。世間では障害者と呼ばれている人も、私たちと同じ命の重みを持った人達です。誰にでも苦手なものはあります。ただ、生まれながらにして、苦手なことが多いだけです。だから、その分私達よりも何倍も努力しながら生きています。そのため、私達よりも強く優しい心を持った人達です。

しかし、このことを知っている人達は少ないと思います。ほくは、少しでもこのことを多くの人に気づいてもらい、誰もが明るく楽しく暮らせる世の中になってほしいです。なぜなら、このようなことを知ってもらうことで、外見だけで判断する人が減ると思うからです。障害者の人が特別扱いされなくなり、全員が平等になるし、もっといろいろな人達が、障害者の内面や気持ちを知ることができるからです。でも、何より良いことは、障害者という言葉が無くなると思うからです。

このことを少しでも実現するために、僕はまず、身近な人にこのことを知ってもらおうと思います。なぜなら、身近な人を知ってもらうことで、そこからまた一人と少しずつではあるが、ゆっくり多くの人にこのことを知ってもらえるからです。

僕はこの人権作文を読んで、目標ができました。それは、人の内面を自らが知りにくいことです。今まであまり話したことのない人とも接して、もっと内面を知って、この学年と友達になろうと思いました。



### 1年1組 「戦争と喧嘩 いじめは紙一重」

戦争、いくさ。特に国家間で、互いに自国の意志を相手国に強制するために、武力を用いて争うこと。私はこの、「自国の意志を相手国に強制すること」という言葉が、酷く胸に突き刺さりました。

私は小学6年生の修学旅行で広島へ行きました。広島に残された原爆の傷跡は酷いものでした。皮膚がただれている人、真っ黒なお弁当、川に入り死んでいく人などの写真や絵などが残されていました。それを目にしたときは、胸が苦しくなりました。

原爆が投下された日は、約1万人の負傷者がでたそうです。また、その年には、約14万人の死者が出たそうです。この14万人の人は生きる権利を「原爆」によって奪われたのです。また、火葬では追いつかず、大きな穴を掘り、おい重ねるようにして、死体を埋めていったそうです。生きる権利を奪われた上に、最後に雑に埋められるなんて残酷だと思いました。

そもそもなぜ戦争が始まってしまったのか、なぜ原爆などの核兵器が生まれてしまったのか。すべては、自国の意志を相手国に強制するためです。これを自分に置き換えてみると、自分の意志を相手に強制するためとなります。こういうふうに置き換えてみると、以外と身近に感じます。自分の意志を強制するために喧嘩をした、なんて人もいるかもしれません。それが大きくなっていくと、自分と相手、自分側と相手側、県と県、国と国といったふうにどんどん戦争のもとへ近づいていくのです。だから私は、自分でもあり得ることなんだと思いました。

「戦争」を小さくすると、喧嘩、いじめなどになると思います。喧嘩をしたら、仲直りをしますよね。いじめがあったら必ず誰かが傷つきますよね。戦争と喧嘩、いじめは紙一重だと思います。つまり、戦争をしたら誰かが傷つきます。そして、仲直りが必要だと思います。

今、戦争が続いている国は約24か国だそうです。はたしてそれを他人ごとにしておいていいのでしょうか。本当に他人ごとでしょうか。私たちは、戦争によって傷ついている人や生活することでさえも苦しい状態にある人達を、少しでも救わなければいけないと思います。自分の少しの寄付が、救うことにつながるんです。人を救うための行動が、一番人としてかっこいい姿だと感じました。

皆さんは、「核兵器禁止条約」を知っていますか。核兵器の開発、実験、製造、使用および威嚇としての使用ならびにその廃絶に関する条約の事をさします。

核保有国である、アメリカ、イギリス、ロシア。また、実質的核保有国である北朝鮮などはこの条約に参加していません。このことから、「核兵器禁止条約」は、現実的ではないと言われてます。この条約の目的は、核兵器の全面廃止と根絶です。なのに、核保有国が参加していないからです。核兵器が無くならないといけない理由を、少しずつでも広めるべきではないでしょうか。

私は、戦争がどれだけ酷いもので、人間の生きる権利を奪っているものか知りました。私たちに出来ることは、自分の意見を押しつけるのではなく、相手の意見もしっかり聞くことだと思います。当たり前のように当たり前ではないことなのかもしれません。平和への道は決して短いものではないと思います。

